

輸出と協業を積極化

澤村

トリコットの希少性発揮

専門商社の澤村（大阪
市中央区）の春日強社長
は今後の重点方針に、

「輸出拡大」「協業の推進」
「人材の確保と育成」「筋
肉質な体制作り」を掲げ
る。

春日社長によると、「こ
れまではあまり力を入れ
てこなかった」生地輸出
事業だが、今期（2020
年9月期）は前年同期比
5%増と伸びている。主
力のトリコットが韓国や
中国向けで拡大。もっと
伸ばす」として今後、開
発、提案を加速させる。
「社ではできないこと
とも多い」として、生地、
製品の両方で水平、垂直
の協業も積極化する。そ
の際にはトリコットとい

う商品の希少性が役立つ
と見る。

定年退職者が増えてい
くことや少子高齢化を見
越し、新卒、中途にこだ
わらず「優秀な人材の確
保」にも努める。今期は
業界経験者を中途で3人
採用したほか、4月の新
卒でも2人を採用する。

獲得した人材や社内業
務の見直しなどで筋肉質
な体制づくりにも臨む。
今期からスタートした3
カ年の中期経営計画にも
このテーマを組み入れて
おり、「人・モノ・金」の
全てを充実させていく考
えだ。
インナー製品製造小売
子会社のプレジャーシー
ンは店舗数を大幅に縮小

するなど前期までに改革
を断行。今期は「あと少
し中身を変えていく」と

し、生産業務を澤村本体
に移管した上で卸事業か
らの撤退も進め、小売事
業に集中していく。

上半期は微 減収見込み

澤村の2020年9月
期上半期決算は、前年同
期比微減収、利益横ばい
になる見込みだ。1月ま
では前年同期をクリアし
ていたが、2月、3月で
落ち込んだ。

1月までの好調を支え
たのは、衣料向け生地と
インナー製品。インナー
製品はアレイ通販が好調

に推移して利益貢献度も
高かった。資材向け生地
は低調だった。
2月以降の落ち込みに
は新型コロナウイルスの
感染拡大による発注減や
納期遅れが影響。「上半期
（の市況）も全く読めな
い」（春日強社長）情勢と
言う。